

感染症速報

作成日: 令和6年11月7日

第44週 10月28日 ~ 11月3日

<http://www.pref.nagasaki.jp/department/iki-h/index.html>

状況	定点当たり	疾患名	状況	定点当たり	疾患名	状況	定点当たり	疾患名	状況	定点当たり
インフルエンザ	0.00	RSウイルス感染症	0.00	咽頭結膜熱	0.00	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.00		0.00	
警戒:開始30 終息10	0.00	警戒:開始 - 終息 -	0.00	警戒:開始3 終息1	0.00	警戒:開始8 終息4	0.00		0.00	
感染性胃腸炎	0.00	水痘	0.00	手足口病	1.50	伝染性紅斑	0.00		0.00	
警戒:開始20 終息12	0.00	警戒:開始2 終息1	0.00	警戒:開始5 終息2	1.50	警戒:開始2 終息1	0.00		0.00	
突発性発しん	0.00	ヘルパンギーナ	0.00	流行性耳下腺炎	0.00	新型コロナウイルス感染症	0.00		0.00	
警戒:開始 - 終息 -	0.00	警戒:開始6 終息2	0.00	警戒:開始6 終息2	0.00	警戒:開始 - 終息 -	0.00		0.00	

※定点数3: インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症
※定点数2: 上記以外の疾患

	発生報告なし		少数の発生あり		流行に注意【注意報レベル】		流行中【警戒レベル】
--	--------	--	---------	--	---------------	--	------------

※警戒レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。

お知らせ

《新型コロナウイルス感染症について》

・新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は「0」で、3週連続のゼロ報告です。長崎県全体では「0.69」で前週より微増でした。

☆トピックス: 手足口病が流行しています(壱岐地区は警戒レベル解除となりました)

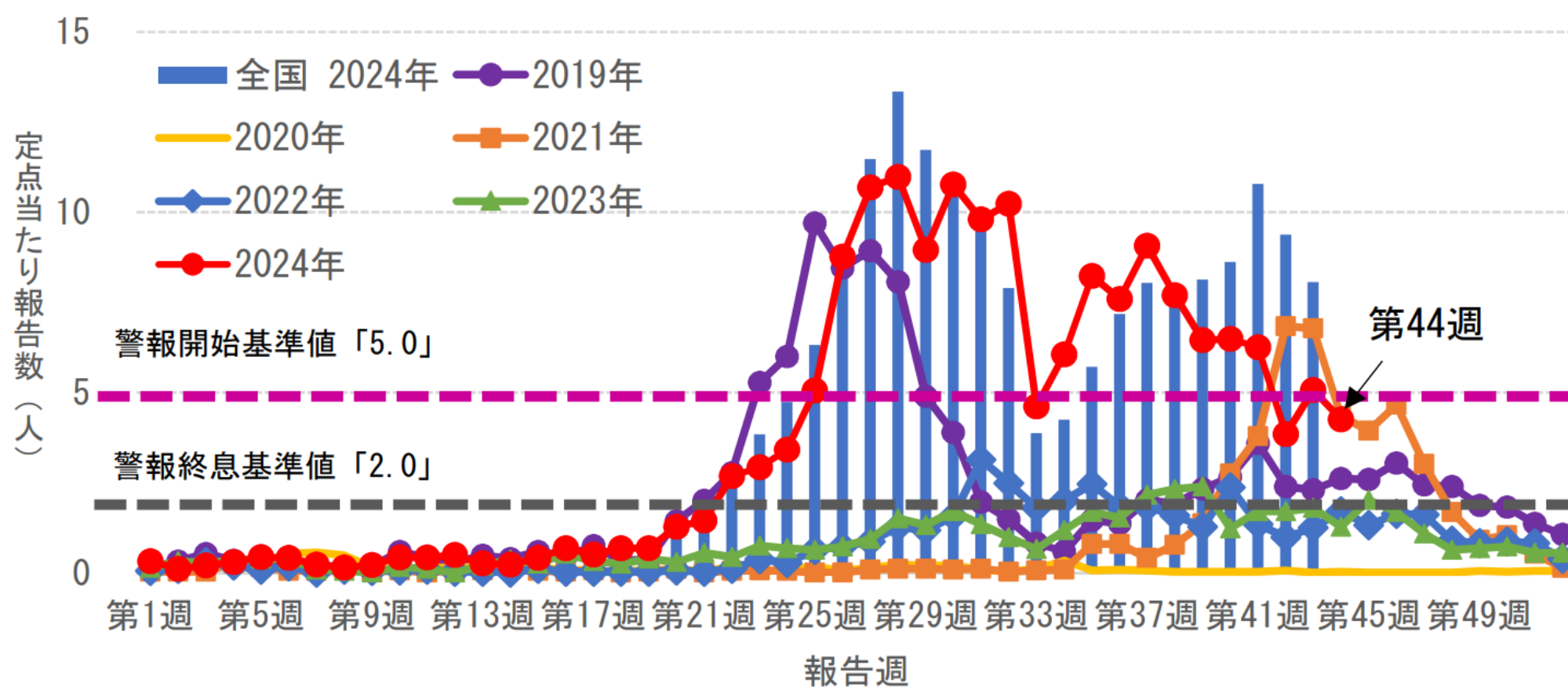
手足口病は、その名の通り四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第44週の定点当たり報告数は「4.25」で前週より減少しましたが、警戒終息基準値を下回らず、警戒レベルの報告数が20週間継続しています。壱岐地区は報告数が「1.50」で警戒終息基準値を下回りました。

今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



☆トピックス: インフルエンザに注意しましょう

令和6年第43週の長崎県全体のインフルエンザの定点当たり報告数が「1.53」で、7週連続で増加しました。地区別にみると、長崎地区(4.24)、五島地区(2.00)西彼地区(1.17)、県南地区(1.13)は他の地区より多く、「1.00」を超えています。

インフルエンザの流行期に入り、今後患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。

また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【インフルエンザ予防策等】

★かからない★

- ・外出後は石鹸で手を洗いましょう。
- ・インフルエンザのワクチン接種は発症予防、重症化予防防止に有効なことから希望される方はかかりつけ医と十分相談の上接種しましょう。(効果の出現までに2週間程度を要します。)
- ・体力が低下しないように十分な栄養と休養を取りましょう。
- ・室内を乾燥させないようにし、また定期的に換気を行いましょう。

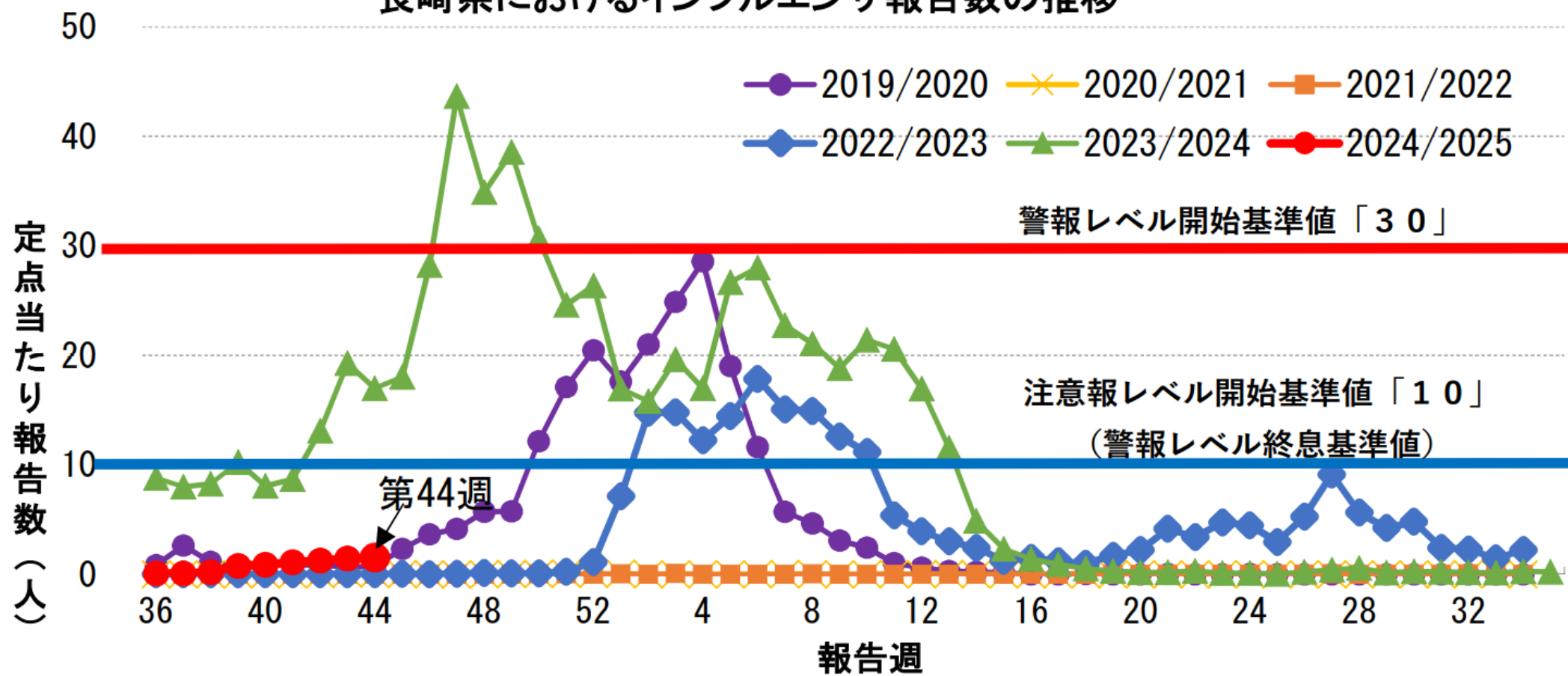
★うつさない★

- ・インフルエンザを広げないために「咳エチケット」を心がけましょう。
- ・「咳エチケットとは」・・・咳やくしゃみが出る場合は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。
マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて、1m以上離れましょう。
- ・鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めたときなどはすぐに手を洗いましょう。
- ・咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。
- ・高齢者など重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、医療機関を受診する高齢者など重症化リスクの高い方が多く入院・生活する医療機関や高齢者施設などへ訪問する等はマスクの着用を推奨します。

●壱岐市のインフルエンザ予防接種に関する情報は以下をご確認ください。

<https://www.city.iki.nagasaki.jp/soshiki/kenkozoshin/yobousessyu/101.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移

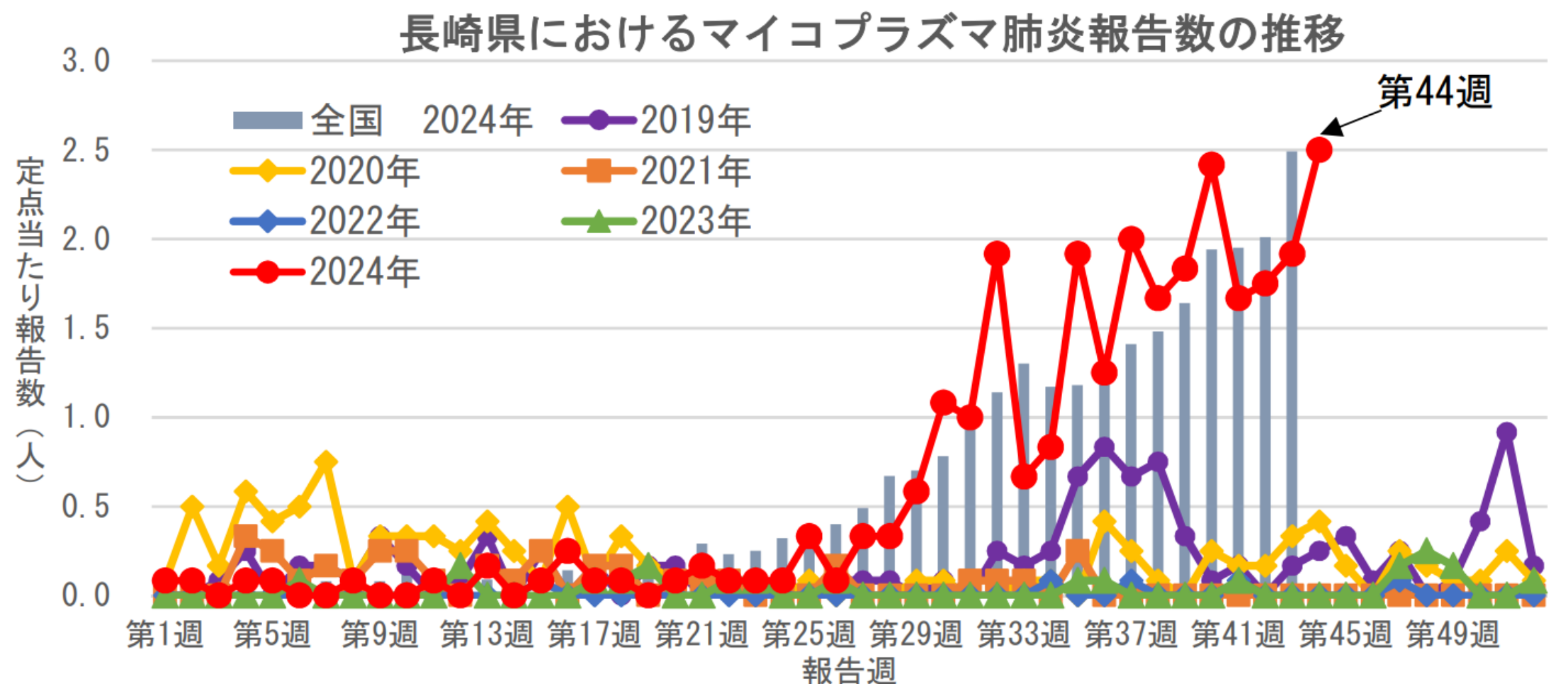


☆トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています！

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年第43週の定点当たり報告数は、「2.50」で、現行の調査方法となった平成11年以降最多の定点当たりの報告数となりました。壱岐地区においては第44週は2名の感染が確認されています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。
咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



☆トピックス：11月は「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」です

国は、平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

「薬剤耐性」とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。抗菌薬は、医師の指示どおりに適切な量を適切な期間飲みましょう。他の人に処方されたもの、家に残っているものを自己判断で飲まないようにしましょう。

また、抗菌薬の使用機会を少なくするために、感染症を予防すること、周りに拡げないようにすることも重要です。日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、適切なマスクの使用などで感染予防に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、つつが虫病などの感染症を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。マダニが媒介する感染症のうち、日本紅斑熱は、10月に最も多く患者が報告されています。

また、壱岐地区における過去10年のダニ媒介感染症の患者報告数は11月がダントツで多くなっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。

壱岐地区における月別累積患者報告数(H25～R6.10)

